

平成 30 年 5 月 30 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02504

研究課題名(和文) 小倉進平による朝鮮語方言資料の言語地図化と言語地図作成ソフトウェアの開発

研究課題名(英文) Geolinguistic studies of the Korean language based on the data collected by Ogura Shinpei

研究代表者

福井 玲 (FUKUI, Rei)

東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・教授

研究者番号：50199189

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、小倉進平の『朝鮮語方言の研究』(1944)所載の朝鮮語方言調査資料を言語地図化し、その解釈を行なった。まず、その準備として、この資料を精査して調査地点、音声表記などを検討するとともに、地図化に相応しい項目約200を選定した。次に言語地図化のためのソフトウェアとして、Seal 8.0を開発した。次に、資料の入力を行ない、それを用いて合計64の項目について言語地図を作成し、その解釈を行なうとともに、各項目の文献資料での用例と対照して語彙史の考察を行なった。その結果を『小倉進平『朝鮮語方言の研究』所載資料による言語地図とその解釈』第1集および第2集として公開した。

研究成果の概要(英文)：In this study, we first examined the data collected by Ogura Shinpei (published in 1944) and then selected about 200 items that are suitable for drawing linguistic maps. Next, we input the linguistic data for these items and developed Seal 8.0 for drawing linguistic maps. Based on these preparation, we created linguistic maps for 64 items and wrote linguistic explanations for these items, thereby interpreting the geographical distribution of each map and the historical data found in written documents for each item. We published the results of this study in two volumes (Geolinguistic studies of the Korean language based on the data collected by Ogura Shinpei, Vol. 1, 2017 and Vol. 2, 2018).

研究分野：韓国語学

キーワード：韓国語 朝鮮語 小倉進平 朝鮮語方言の研究 言語地図 言語地理学 語彙史 Seal

1. 研究開始当初の背景

朝鮮語(韓国語)の方言調査は、戦前には主に日本人の学者、特に小倉進平と河野六郎によって行われ、戦後には韓国で崔鶴根、金亨奎などによるものがあり、さらに1980年代には韓国精神文化研究院によって組織的に韓国全域について行われた大規模な調査があって、その成果は『韓国方言資料集』(全9巻)として刊行されている。

これらの方言調査のうち、小倉進平による調査の成果は『朝鮮語方言の研究』(1944)(上下2巻、岩波書店)に膨大なデータとともに集大成されているが、残念ながらこの資料は朝鮮語(韓国語)研究者の間でも十分に活用されておらず、放置された状態にある。しかし、このデータは、戦後に韓国で行われた方言調査の結果と比較すると、(1)調査された年代が古い、(2)韓国だけではなく現代の北朝鮮を含む朝鮮半島全体が調査対象地域になっている、という大きな利点がある。本研究の背景は、これまで十分に活用されてこなかったこの資料を最大限活用することによって朝鮮語(韓国語)の語彙史研究の進展を図ることができるであろうという見通しがもたれている。

2. 研究の目的

(1) 本研究は、戦前に小倉進平によって収集された朝鮮語方言資料を言語地図化し、そこに見られる語形分布を文献資料とも照らし合わせて解釈し、朝鮮語(韓国語)の語彙史を立体的に再構成することを目的とする。また、その際に戦後に韓国で行われた方言調査の結果と照らし合わせて検討する。

(2) そのために、言語地図作成ソフトウェア Seal を使用するが、原作者による開発が終了しているため、それをベースにしてより汎用的な改訂版(Version 8.0)を作成する。

(3) その上で、最終年度には、小倉進平のデータに基づいた朝鮮語言語地図とその解釈を含む詳細な報告書、および Seal 改訂版のマニュアルを作成してウェブページ上で公開する。

3. 研究の方法

(1) 平成27年度は、扱う方言資料について予備的に精査を行うとともにデータの入力を開始する。ソフトウェアの開発はこの年度に中心的に行う。従来の Seal に比べ、開発環境、文字コード、地図描画作業の効率化、地図の画像ファイル(PDF ファイル)としての出力対応などが大きな修正点となる。

(2) 平成28年度は、資料の入力を本格的に行なって、言語地図の作画を進め、それをもとにして、1つ1つの項目の解釈を行う。その際、文献資料における用例もできる限り調査する。

(3) 平成29年度は、各項目についての地図および文献を用いた解釈を進めるとともに、それをまとめて報告書を作成する。また、Seal の改訂版のパッケージとマニュアルを作成して、所属機関のホームページ上で公開する。

4. 研究成果

(1) 準備作業

小倉進平の資料に基づいて言語地図を作成する前に、そのために必須の準備作業として『朝鮮語方言の研究』(1944)全体を精査して、調査地点、彼が用いた音声表記の特徴、調査対象語彙などを詳細に検討した。また、その作業を行なった結果として、言語地図を描くのに相応しい約200の項目を選定した。

調査地点については、実際のデータ中には彼自身が凡例で示した地点よりも5地点多いことが判明した。音声表記については、小倉進平による表記法の特徴、音声記号の選択方法などを綿密に検討し、済州島の独自の母音についての彼の観察とその記号化の方法、方言によって異なる母音の音価への対応などを明らかにするとともに、長母音は表記されていないことが多いことを明らかにした。また時に誤植や必要な音声記号の脱落が見られることも明らかにした。

(2) 資料の入力

平成27年度と28年度には謝金を用いて、大学院生によって約120項目のデータをエクセルファイルとして入力した。またそれ以外にも研究代表者が独自に入力した項目もあり、それを合わせるとこれまでに約150個の項目の入力が完了した。

入力に際して、音声記号は、テキストの可搬性を考慮して、いわゆるASCIIコードだけを用いてその組み合わせの記号列で表現する独自の定義を設けて、それにしたがって入力した。

(3) 言語地図作成ソフトウェアの開発

これについては、本研究の連携研究者である福嶋秩子氏と、故福嶋祐介氏によって作られた Seal をベースにして、その機能を大幅に拡張させた改訂版(Version 8.0)を作成して言語地図を描くことにした。

福嶋氏によるオリジナルの Seal は開発言語として Visual Basic 6.0 を用いているが、これは現在では古くなり、最近の Windows ではそのまま動かすことはできないので、最新版の Visual Studio の環境に移植する作業を行なった。その他にさまざまな改良を行なったが、その主なものは以下の通りである。

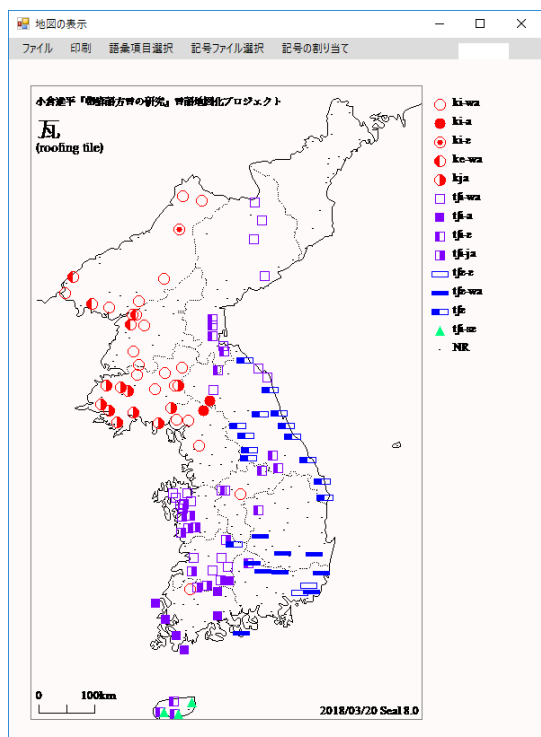
まず、各地点の言語データを収めたファイルの文字コードとして従来は Shift JIS のみが想定されていたが、Version 8.0 では Unicode をはじめとしてさまざまなコード体系に対応させた。

言語地図を描く際のユーザーインターフェイスを向上させるとともに、エラーへの対処を柔軟にして、従来しばしば見られたプログラムの異常終了が起きないようにした。

言語データを読み込ませる手順を簡素化し、従来のように独自の様式のテキストファイルだけでなく、エクセルファイルから Unicode テキストとして保存したファイルをそのまま読み込んで処理できるようにした。

言語地図の効率的な作成のため、語形を表わす記号の選択方法を大幅に改良し、色や形、大きさに関して、半自動的に割り当てることを可能にした。これによって1枚の地図の作成時間が大幅に短縮された。

こうして作成した Seal 8.0 の起動画面および地図作成中の画面は次のようになっている。



なお、マニュアルについてはまだ暫定版にとどまっております。詳細な正式版の完成のためには今後も継続して作業を行なう予定です。

(4) 言語地図の作成と語彙史の執筆

これが本研究の成果の一番中心的な部分をなすものである。

上の(2)で入力したデータをもとにして、(3)で紹介した Seal 8.0 を用い、平成 28 年度には 33 項目、平成 29 年度には 31 の項目を選んで、言語地図を作成するとともに、その項目に関わる語彙史的な解説を執筆した。その執筆は、研究代表者の他に、研究代表者のゼミに参加している大学院生も加わることで教育上の効果も高めることができた。そしてその結果を、東京大学大学人文社会系研究科韓国朝鮮文化研究室からの研究報告書として次の2つに分けて作成し、研究代表者のウェブページ上で公開するとともに冊子版としても作成して関係者に配布した。

・『小倉進平『朝鮮語方言の研究』所載資料による言語地図とその解釈 第1集』(PDF版, 冊子版)

・『小倉進平『朝鮮語方言の研究』所載資料による言語地図とその解釈 第2集』(PDF版, 冊子版)

この2冊の報告書で扱った語彙項目は以下の通りである。

[第1集] (天文) 星, 雹, (時候) 秋, 冬, (地理・河海) 海, (身体) 臉, 頬, 臂, (家屋) 柱, 瓦, 台所, (服飾) 木履, 木綿, 麻布, (飲食) 漬物, (農耕) 箕, 石臼, (花果) 百合の花, 杏子の実, (菜蔬) 甘藷, 馬鈴薯, (金石) 砂, 鉄・金, (器具) 硯, 柄, 火爐, (走獸) 狐, (水族) 蛭, 鰻, (昆虫・爬虫等) 蝸牛, 蚯蚓, (雑) 煙, 炭

[第2集] (天文) 細雨, (地理・河海) 山・墓, (方位) 外, (人倫) 子の妻, 男子・男児, 巫女, (身体) 舌, (服飾) 簪, 下駄, 靴, (飲食) 粉, (花果) 李の実, (菜蔬) 大根, 蕎麦, 黄瓜, 稲, 玉蜀黍, 小豆, (金石) 土, (器具) 鉢, 馬槽, 俎, 盤, 鏡, 熨斗 (走獸) 猫, 亀 (水族) 鮎, (草木) 木, (副詞) 尖れるさま, (雑) 塵

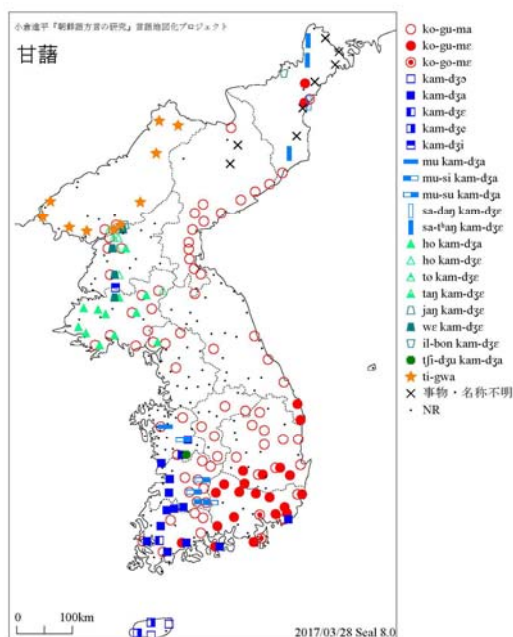
これらのすべての項目について、言語地図を作成するだけでなく、各項目の文献上の記録を調べて、歴史的な変化を考察するとともに、それがどのような形で地理的な分布に反映しているかを考察した。また、項目によっては語源を考察するほかに、特に新しい事物についてはその導入の経路と名称との関係を詳細に考察した。その具体的な内容は項目ごとに異なるので、ここでそのすべてを紹介することはできないが、第1集に収録されている「甘藷と馬鈴薯」という項目では次のようなことを明らかにしている。

これらの穀物とともに 18 世紀頃に新たに外国から朝鮮半島にもたらされたものであり、その経緯を史料に基づいて整理した。

「甘藷」の場合には今日の標準語になっている ko-gu-ma という語形は、日本の対馬方言の「孝行芋」に由来するが、それが半島の南部地域から徐々に北部に伝わって行った

こと、地域によってはそれが「甘薯」に由来し、今日の標準語では「馬鈴薯」の意味で用いられている漢字語 kam-dʒa が用いられていること、「馬鈴薯」については、導入経緯は諸説あるものの、語形分布上からは北方説が有利であること、さらに、他のさまざまな地域ごとの独自の名称とその解釈、などを明らかにした。

この項目に関して「甘薯」の言語地図を次に掲げる。



最後に、この研究成果に付随する成果を1つ付け加えておく。言語地図の解釈に必要な文献上のデータに関して従来不十分であった部分を補うため、東京大学文学部小倉文庫に所蔵されている中世韓国語の資料の中から重要なものの影印資料を作成し、解説を付けて『小倉文庫所蔵中世韓国語影印資料 第1集』として印刷した。これにより、今後さらに残りの項目について考察を進める際に、文献上のデータの確認作業を効率的に行なうことができるようになった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5件)

- ① 福井玲, Accent shift in Japanese and Korean, *Journal of Asian and African Studies*, 査読有, 94, 2017, pp. 243-257
- ② 福井玲, Rice and related words in Korean, *Studies in Asian Geolinguistics*, 査読無, 3, 2016, pp. 36-41
- ③ 福井玲, Milk in Korean, *Studies in Asian Geolinguistics*, 査読無, 3, 2016, pp. 42-45
- ④ 福井玲, Phonetic observations on Korean dialects made by Ogura Shinpei, *Papers from*

the Third International Conference on Asian Geolinguistics, 査読無, 2016, pp. 112-126

- ⑤ 福井玲, 小倉進平の朝鮮語方言調査について—『朝鮮語方言の研究』所載資料の活用のために—, 『東京大学言語学論集』, 査読有, 37, 2016, pp. 41-70

[学会発表] (計 11件)

- ① 福井玲, Palatalization and hypercorrection in the history of Korean, The 4th International Conference on Asian Geolinguistics, Universitas Indonesia, 2018
 - ② 福井玲, 言語地図化した小倉進平方言資料から見えてくるもの, 第256回朝鮮語研究会, 2017
 - ③ 福井玲, An overview of the accent/tone systems found in Korean dialects, Studies in Asian Geolinguistics at AA Institute, 2017
 - ④ 福井玲, How to count nouns in Korean, Studies in Asian Geolinguistics at AA Institute, 2017
 - ⑤ 福井玲, "Iron" in Korean, Studies in Asian Geolinguistics at AA Institute, 2016
 - ⑥ 福井玲, "Wind" in Korean, Studies in Asian Geolinguistics at AA Institute, 2016
 - ⑦ 福井玲, 金沢庄三郎による日本語と韓国語の比較研究について, 国際日本文化研究センター共同研究会「日本語の起源はどのように論じられてきたか—日本言語学史の光と影」, 2016
 - ⑧ 福井玲, Accent shift in Korean and Japanese, International symposium on Japanese and Korean accent: diachrony, reconstruction, and typology, 2016
 - ⑨ 福井玲, 小倉進平の朝鮮語方言調査について, (台湾)国立政治大学韓国語文学系創系60周年国際学術会議, 2016
 - ⑩ 福井玲, Phonetic observations on Korean dialects made by Ogura Shinpei, The 3rd international conference on Asian Geolinguistics, 2016
 - ⑪ 福井玲, 小倉進平による朝鮮語音声の観察について, 朝鮮語アクセント・イントネーション研究会, 2016
- [図書] (計 3件)
- ① 福井玲, 小倉進平『朝鮮語方言の研究』所載資料による言語地図とその解釈 第2集, 東京大学大学院人文社会系研究科韓国朝鮮文化研究室, 2018, 132
 - ② 福井玲, 小倉文庫所蔵中世韓国語資料影印第1集, 東京大学大学院人文社会系研究科韓国朝鮮文化研究室, 2018, 141
 - ③ 福井玲, 小倉進平『朝鮮語方言の研究』所

載資料による言語地図とその解釈 第1集,
東京大学大学院人文社会系研究科韓国朝鮮
文化研究室, 2017, 142

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/~fkr/0guraProject.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

福井 玲 (FUKUI, Rei)
東京大学・大学院人文社会系研究科・教授
研究者番号：50199189

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

福嶋 秩子 (FUKUSHIMA, Chitsuko)
新潟県立大学・国際地域学部・教授
研究者番号：80189935

(4) 研究協力者

()